



喜多の埜

熱燗

天長二年(八二五)九月九日(太陽暦で十月二

十七日頃)、当宮の主祭神であります嵯峨天皇(当時は上皇)さまが秋狩りの為に交野ヶ原(現在の大阪府交野市付近)に行幸あそばした時、俄に冷え込んできたので、御前に、時の左大臣、藤原冬嗣が酒を温めて献上したという事が、伊勢貞順が著わした有識故実書『貞順故実聞書条々』に書き記されています。

これが**日本初の熱燗の記録**とされ、この故実をもとに、「燗は九月九日より三月二日まで」とされ、現在の暦で、十月初旬から四月初旬までが燗酒の時期とされています。

酒を温めるといふ事は、中国の紹興酒、欧州のグリューワイン(ホットワイン)ぐらいで、世界的にみても、とても**事例が少なく**、特に記録がはつきりしているという点では、日本の燗酒は大変時代の古いものに属します。

平安時代の日本酒は現在主流となっている端麗辛口の透明なお酒ではなく、**甘口芳醇な濁り酒**が主流であり、行幸先でしたので、恐らくこの濁り酒が供されたのではないかと考えられています。ちなみに、今月十五日は当宮の**秋祭**ですが、この時にお供える神饌の一つに「あま酒」があり、嵯峨天皇が召された当時のお酒の形を今に残しています。

燗酒の燗という字は**火の間**と書きます。これは常温と火の間の温度という意味で、**四五度前後の上燗**から**五十度の熱燗**までが最も香り引き立つとされます。**人と人との間を温める**のもまた燗酒の魅力なのかもしれません。

御本社防犯カメラ設置

昨今、何かと物騒な世情の為、御本社の鎮座しております**神山町**をはじめ**北野連合振興町会**では防犯カメラを設置する運びとなり、当宮御本社付近にも設置される運びとなりました。何よりも**神さまが見ている**というお気持ちをお気持ちは日本人は忘れないで頂きたいものです。

水害への備え

八月二十七日に、大阪市内は**記録的な豪雨**に見舞われ、茶屋町の当宮御旅社前では下水の排水能力が追いつかず、社務所があわや床下浸水する直前まで水があふれました。

また、**先月の台風**では、奈良・和歌山、愛知では**大変な豪雨**で大きな被害を受け、これまでの観測記録などから照らし合わせても、昨今の豪雨災害は**予想がつかないもの**となっています。

今から二十数年前にも、梅田は豪雨に見舞われ、茶屋町あたりでは腰近くの高さまで水があふれ出たという事があり、その時に梅田界隈では**下水管が大幅に整備**され、もう二度と水があふれる事は無いとまで言われていたが、この度あふれ出す結果となりました。

先の東日本大震災でも、**大丈夫だろうという過信**が大きな原発事故を招いた要因とも言われています。目先の防災で安心するのではなく、**日頃からの備え**が何より大切です。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

